

平成29年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

施設名称	麻生区第1グループ(百合丘・東百合丘・千代ヶ丘)	評価対象年度	平成29年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H28		H29		H28		H29	
	1 百合丘こども文化センター ①年間延べ利用者数	31,708人	31,166人	②年間延べ利用団体数	367団体	477団体		
2 百合丘小学校わくわくプラザ ①登録者数	531人	546人	②年間延べ利用者数	27,743人	31,372人			
3 西生田小学校わくわくプラザ ①登録者数	435人	432人	②年間延べ利用者数	21,960人	24,567人			
1 東百合丘こども文化センター ①年間延べ利用者数	20,920人	22,650人	②年間延べ利用団体数	346団体	316団体			
2 長沢小学校わくわくプラザ ①登録者数	277人	314人	②年間延べ利用者数	15,763人	19,010人			
3 南百合丘小学校わくわくプラザ ①登録者数	386人	427人	②年間延べ利用者数	16,839人	17,155人			
1 千代ヶ丘こども文化センター ①年間延べ利用者数	31,015人	26,792人	②年間延べ利用団体数	340団体	313団体			
2 金程小学校わくわくプラザ ①登録者数	229人	243人	②年間延べ利用者数	9,354人	10,195人			
3 千代ヶ丘小学校わくわくプラザ ①登録者数	318人	299人	②年間延べ利用者数	13,450人	15,345人			
収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 170,678,425 2 支出 人件費 145,486,284 管理費 10,879,097 事務経費 7,606,189 その他経費 9,050,913 合計 173,022,483 3 差引 -2,344,058							
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。							

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進及び事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	3	6
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全な育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・百合丘こども文化センターでは、中学生の居場所として特色ある企画を実施しており、中学生の要望を取り入れた「カラオケ大会」を複数回実施、高校生ボランティアが企画から当日の運営までを行い、当日は中学生以外に乳幼児親子も参加するなど、多世代交流が図られたほか、さらに追加で2回実施することになるなど、中学生がイベントを通じて一体感や達成感、自己有用感を得られることができた。 ・東百合丘こども文化センターでは、中学生の利用促進を図るため、夜間にダンス練習を希望する中学生の要望に応え、図書室を区切って音楽可とし、練習で使用できるような大型の鏡を設置したところ、中学生の利用者が昨年度と比較して、約360人増加した。 ・千代ヶ丘こども文化センターでは、これまで金程中学校との連携で実施してきた「異年齢交流事業ミックスジュース」を、今年度は新たに、麻生高等学校や麻生総合高等学校にも声掛けを行うなど、対象者を広げたほか、中学生のトレーニング室の利用が増えている状況を踏まえ、来館している中学生を中心とした卓球大会を実施し、これまで交流のなかった中学生が交流を深めるきっかけとなった。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	3	6
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	4	4
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	3	6
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3	
(評価の理由) ・利用者ニーズについて、意見箱の活用や利用者アンケート、子ども運営会議等を通して、利用者ニーズ把握に努め、施設利用ルールの改定等に利用者意見を反映しているとともに、苦情等への対応が適切に行われている。 ・特別な配慮を要する利用者への対応について、「事例検討研修」や「ADHDの理解研修」を受講し、言葉での指示の理解が難しい児童のために、絵や写真を活用するなど、実際の児童対応に生かしつつ、職員の実質向上にも努めているとともに、保護者や小学校等と連携し、情報共有を行っているほか、スタッフ全員で同じ対応が出来るよう、普段の様子等を情報共有ノートに記載し、個々の児童に合わせて、行事に参加できるようにしている。 ・学校及び行政機関との連携について、地域教育会議や学校行事の参加に加え、デイサービス施設や麻生区保健福祉センターと連携し事業を実施する等、地域と連携し、事業を実施している。 ・施設・事業の広報について、ホームページやおたより等多様な媒体を用いて積極的な広報を行っている。また、東百合丘こども文化センターでは乳幼児より「LLK」を毎月発行したり、百合丘こども文化センターでは西生田中学校にたよりを年7回配布したり、南百合丘小学校わくわくプラザではPTA広報誌にわくわくプラザの紹介を載せてもらうなど、施設・事業の周知のための広報等を定期的かつ継続的に行っている。 ・保護者懇談会の実施について、多くの保護者が参加できるように、開催曜日を変える等の工夫をしている。また、アンケート等で保護者ニーズを把握している。					

組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正な人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。特別な配慮を要する利用者についても、状況に応じた人員配置ができています。 ・職員の研修体制については、運営法人の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修が行われていた。また、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員がその知識を共有しており、研修資料やレポートをファイル等に一元化し、職員が閲覧出来る等、共有化の仕組み作りが出来ている。特に、麻生区では、少子高齢化が進んでいることから、区研修として、「多世代・異年齢交流の促進について」の研修を実施し、多世代交流を促す環境づくりの大切さやこども文化センターの役割、多世代が参加できるムーブメント遊びを学び、百合丘こども文化センターで実施された「さんま井まつり」において、子どもたちと高齢者が協力して物販を行う等の工夫が活かされている。 ・個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかった。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	4	4
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	3	3	
	災害発生時に備えた対応が図られているか。				
	災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。				
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の保守管理については、こども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。 ・利用者の安全確保については、財団作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行うとともに、実際の事故やヒヤリハット事例をもとに法人本部で「事例検討シート」を年2回作成し、館長会議、各館での職員会議、スタッフ会議と三階層において議論を重ね、そこで得られた対応策を集約して共有するなど、職員等の資質向上を図っている。また、職員が危険予知のための潜在危険チェックリストを共有し、チェック項目を確認しながら、事故発生時の対応を確認し、職員の意識づけを行うほか、行事が始まる前に、子どもたちにKYT(危険予知トレーニング)を実施し、教室や校庭等で子どもたちが遊んでいる絵を見せ、どこが危険かを子どもたちに考えさせる時間を設けることで、事故防止に積極的に取り組んでいる。 ・防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、災害備蓄品の常備や消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。また、学校の避難訓練に参加しているほか、災害発生時の危険箇所を載せた防災安全マップを作成する等の取組を行っている。 					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
	支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。				
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金銭管理・会計手続については、適正に行われている。 ・受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。 					

4. 総合評価

評価点合計	65	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

こども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に長年に渡り携わってきた経験を活かし、安定した施設運営を実施している、市内20グループの指定管理を行うスケールメリットを活かし、全グループ合同行事、区合同行事等に加え、各館独自の事業、新規事業にも取り組んでいる。

また、特別な配慮を要する利用者に対しても、個々の児童の特性を踏まえた、きめ細かな対応が行われている。また、行事前に子どもたちに、教室や校庭等で子どもたちが遊んでいる絵を見せ、どこが危険かを子どもたちに考えさせる「KYT(危険予知トレーニング)」を実施して、安全意識の啓発を行った。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子ども顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。